

神戸市の「ともにつくる安全で安心なまちづくり賞」を受賞

AI防災協議会(理事長:LINE株式会社 江口清貴)は、阪神・淡路大震災から25年となる2020年1月17日に、神戸市が開催した「神戸防災のつどい2020*1」において、「ともにつくる安全で安心なまちづくり賞」を初めて受賞しました。

神戸市の「ともにつくる安全で安心なまちづくり賞」は、地域の安全・安心を確保するために、事業者等が行っている顕著な活動を表彰し、その活動の社会的な評価を高め、良好な地域社会づくりを推進することを目的としたものです。

今回、AI防災協議会は、これまで全国各地でAI等を活用した防災・減災の取り組みを行ってきたことや神戸市と連携してLINE版チャットボット*1SOCDA*2を用いた実証訓練などを行っていることなどから表彰を受けました。

AI防災協議会は、昨年(2019年)6月の設立以来、産官学が連携し、AI・SNS等をはじめとする先端技術やITインフラなど、参画各者それぞれの持つ強みを持ち寄り新たなイノベーションを創出し、災害対応能力の高い社会構築を早急に実現するため取り組んできました。その中でも、協議会の自治体会員である神戸市とは協議会として最初の実証実験を共同で実施し、その後も実証訓練を重ねてきました。

AI防災協議会は、今後も関係自治体とともに実証訓練等に取り組み、防災・減災にかかわる課題解決を目指して取り組んでまいります。



受賞団体・事業者の代表一同



AI防災協議会 江口清貴 理事長

<参考>

*1 チャットボット: 自動応答コンピュータープログラム

*2 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCIal-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマ I「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ 1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。